

AOYAMA OIKOS NOMOS



青山学院大学経済学部同窓会会報

2001. 11.16 第4号

「Cool head and Warm heart」

経済学部同窓会会長 榎本 弘



青山学院大学経済学部同窓会も設立3年目に入り、ようやく視界の見える軌道を走り始めた気がします。ここまで「発足の苦しみ」(第3号・編集後記)に堪え、誠心誠意努力された役員・幹事、そして会員お一人ひとりに深い敬意を表します。これからは「持続の楽しみ」(「苦しみ」ではなく)を心から経験されるよう期待します。

大学経済学部も今年で設立52周年になり、約3万5000名の卒業生(校友)を出すに到りましたが、同窓会としては、なんとかしてこのすべての卒業生(校友)を網羅する同窓会にしたいものと思います。

同窓会の目的は、会員相互の親睦と研鑽、そして母校の発展への寄与、にあります。同時に私は、もし私たちの同窓会が、その活動を通して、すべての会員にとって、いわゆる「生涯教育(学習)の場」、つまり、なんらか

の意味で卒業後の私たちの知的・人間的成長に資する場としての役割が果たしたら素晴らしいと考えています。そのために、今後ますます会の組織の確立、会員の増強、そして活動の深化と多面化を指向しなければならないと思っています。

他方、本年9月23日(日)には、新たに大学経営学部同窓会が発足しました。これで大学の4学部と8学科、計12の学部・学科同窓会が設立されたこととなります。とくに経営学部は、種々の意味で経済学部とは親密な兄弟関係にある学部ですので、今後、共に協力し合いながら、両同窓会の発展に努力したいものと考えます。

イギリスの経済学者アルフレッド・マーシャルの著名な言葉、「Cool head and Warm heart(冷静な頭脳・暖かい心情)」は、旧くて、しかし斬新な言葉です。私たちは、人生のあらゆる場面でこの言葉を深くかみしめながら、私たちの同窓会のためにも生かして行きたいと心から願います。

経済学部同窓会の会員お一人ひとりのご健勝とご活躍を切に祈ります。
(青山学院校友会会長)



山口廣太氏



総会風景



美添泰人経済学部教授



懇親会風景

第三回経済学部同窓会総会(第2年度年次総会)・記念講演会「マクドナルド「平日半額」戦略」山口廣太氏
～2001.6.16於：青山キャンパス 大学920教室／引き続き「懇親会」、於：青学会館

経済学部同窓会会員は今……

「渡 哲也と同期です」

藤戸謙吾(1965.3 商学科卒 高知県在住)



まさに何が起きるか分からない。世紀の大ニュースである米同時多発テロ事件とその報復攻撃で大騒ぎしているなか、同窓会幹事長の室伏孝一先輩から原稿のリクエストだ。先輩はなかなかの豪腕であり、またはるばるお江戸から土佐の地を訪ねていただき、カツオのたたき、皿鉢料理を囲んだご縁でもある。頭の上がらぬ先輩なので、内容はともかく出席原稿を提出し、責めを果たしたい。

卒業年度は、青山学院の創立90周年の式典が行われた年。院長学長が大木金次郎氏、来賓に駐日米大使のライシャワー氏出席という昔なので、もう還暦まぎわの身だ。現在、橋本大二郎知事ですっかり有名な高知県唯一の地方紙で編集を担当している。

下宿を一度変わったので、「井の頭公園」と「高田馬場」から「渋谷駅」を経て宮益坂を上り下りするのが大学4年間の通学パターン。拳法部の末席にいて駅近くの渋谷警察署道場での練習に明け暮れていた。体育会は伝統的に先輩が先輩をたてるので、いつも満杯の大学食堂だったが、席取りに苦労したことはない。俳優の渡 哲也の空手部在席が好都合で、似ても似つかぬ私だが、いつも「渡哲也と同期です」と言って驚かせている。

四国・高知の田舎育ち故、当時大学に入ったことより、東京で遊学できることがうれしかったのだろう。就職は決まったものの卒業時の単位取得に一苦労。大田に見ていただいた簿記のM先生のお名前は今もって忘れられない。

近年、青山学院は伝統的教育方針にますます磨きがかかり、国際舞台で活躍する教授陣、同窓も多い。時代の転換期に若者の能力、情熱、感性は欠かせず「青学魂」でリーダーシップを発揮、米同時多発テロ事件とその報復攻撃など、この複雑、多様な21世紀の日本、国際社会にあってますますの活躍を祈りたい。

「趣味三昧」

宮崎 泰(1961.3 商学科卒 鹿児島県在住)



私には、子供の頃から長く続いている趣味が二つある。両方とも、もうかれこれ50年程になるから我ながらよく続いているものだと感心したり呆れたりしている。

一つはスタンプ・コレクション（ジャンルは植物と鉄道）、もう一つは鉄道模型（プラモデルとは全く異なる）。

鉄道模型愛好家には、機関車等を精密工作する人、レイアウトを造り走らせて楽しむ人、と様々である。又、SL、ELだけとかジャンルも実に数多くある。私は完全なレイアウト派。現在、10年程かけて完成間近いレイアウトは、2.5m×5m程、そう大きなものではないが、客車8～10両編成の走行が楽しめる。HOゲージ交流方式、ドイツの車両が中心だがイタリア、スイス、オーストリア、フランス等の車両編成もあり国際色豊かである。

中央駅1番、2番ホームには、ドイツの新幹線ICE1号、2号が停車し、3番ホームには、ドイツの誇るSL01号が10両編成のオリエン特急行をひくため出発を待っている。1番ホームには、イタリアから到着したばかりの新鮮やかなツートンカラーの客車から、早めの夏休みを地中海で満喫した人達が降りたち、5番ホームには、ドイツやチェコの地ビール貨車30両が各地の美味しいビールを満載して到着したばかり。夏のシーズンには必ず運転される貨物編成である。

又、全線電化工事は、この10月末には完了予定。この春入手したドイツのICE3号（流線型の姿は実にきれいだ）が、電化区間で最高時速180kmを出し、だんだんスピード・アップし夢の300kmを目指し毎日テスト走行をくりかえしている。これには従来の架線システムでは、ハンタグラフがうまく作動せず速度が出せなかったが、ドイツの架線メーカー「ソマフェルト社」のシステム導入で解決出来た。たかが鉄道模型、されど鉄道模型で、趣味もここまでくればイカガなものでしょう。車両のガッタンゴットンが堪らない。（1941年創業ハープ生産販売の二代目）

「第8回青山学院大学同窓祭を終えて」

石田心也(1995.3 経済学科卒 愛知県在住)

9月は実行委員として同窓祭に参加させて頂きありがとうございました。私は6年前に卒業した者です。卒業後は、滋賀県で3年間就職し、その後実家の愛知県に戻って参りました。恥しながら2年前まで同窓祭の存在は全く知りませんでした。大先輩のお導きにより「同窓祭実行委員の手伝いをやって見ないか？」と尋ねられ、二つ返事で「是非やらせてください」と言った記憶があります。年に数回しか同窓祭の会合に寄れませんが、その度に学校のキャンパス内を歩いて大変うれしく思っております。今でも大学時代のクラスメート達と年に数回会っておりますが、青山学院を通じての友達はかけがえがなく、また青春時代をよみがえらせてくれるものです。

さて、同窓祭は去年と今年と2回参加させて頂きました。去年はネットワーク委員に属され、チケット販売の補助を行ってまいりました。雨天であり、外での催し物はほとんど閉鎖されていた記憶があります。友人を何人か誘っておりましたが、子供を連れていた者は遊び場が無くかわいそうでした。雨対策も重要だと気がきました。昨年は天候のせいで同窓祭は少しもの寂しい印象を持ちました。

今年の同窓祭は、昨年と違って快晴でした。私はメインイベントである和泉元彌さんの「狂言の世界」の会場整理となりました。和泉さんは正に時の人で広い講堂がみるみるうちに埋まっていくのには驚きました。

会場整理を終えた後は校内を歩いて廻りましたが中央ステージ（パフォーマンス広場）からは歌声が聞こえ福引きには人が列をなして並んでいたりと、お祭りの雰囲気をも十分に楽しませて頂きました。メインイベントの入選・寛げる空間・快晴などからみると今年の同窓祭は成功の部類に入るのではなかったでしょうか。

以前の私のように同窓祭の存在すら知らない人がまだまだたくさんいると思います。これからも地道な勧誘活動を行い、来年以降も同窓祭が盛り上がることを祈っております。

「師の教え今に」

桜井忠敬(1961.3 経済学科卒 神奈川県在住)



後に経済学部長になられた大野弥曾次教授に昭和35・36年とゼミで指導いただいた。サミュエルソンのエコノミックスがテキストだった。近年、財投効果に限界ありとし、不評であるが、当時は池田内閣のもと所得倍増政策がうち出され真に学び甲斐のある講義であった。そしてその後の右肩あがりの経済成長持続の為に採られた諸政策は、さながらゼミの延長線上にあるケーススタディそのものの視を強く覚えるほどであった。学生時代は学費稼で忙しく、先輩方始め同期のF・I・M・N・Tの諸兄姉に原書講読他、なにかと助言助力を頂いたことが懐かしい。

教授の教えは実体験に裏打された真に含蓄あるものであった。「卒業はGraduateでなくCommencementである」と社会人になってからの勉学を諭された。経済白書・日銀短観・日経景気指標を読み自分なりの景気観を持てたのも、サミュエルソンや高橋亀吉の新聞投稿を待ち遠しく思ったのも、「時々の初心忘るべからず」と励ましの書状を頂いたからである。教授はまた教え子の結婚式で、「三惚れ、女房に惚れ、仕事に惚れ、土地に惚れよ」とスピーチされるのが常だった。これを墨守することによって今日まで、私は常に活力を得続けることが出来たものと思う。

一昨年待望の「学部同窓会」が設立され、師へのご恩返しを些かでも出来ればと、準備段階より係わらせて頂くことにした。当初は時間なく何らお役立ち出来ぬ状況にあったが、今春会社生活から身を退き自由人となった。組成直後の名簿を調べると、36年卒600名余の約一割しか登録されておらず、90年版の名簿が役立たずなのも知った。同窓会の組成母体は「各学年の同窓生」となっている。今般、9/23大学同窓祭に参集した同期の仲間と語り、名簿作成・クラス会開催支援を含め、36年卒の横断的組織づくりを始動させることとした。教授の教え「考後の初心」を噛みしめながら仲間と共に前進したい。

第3号編集後記の呼び掛けに込めて!

「大学時代の思い出」

宮川道雄(旧姓、長富)(1953.3 商学科卒 東京都在住)

戦中戦後の6年間を畠の中に建てられた、木造一階建ての学舎(都立武蔵ヶ丘高等学校)で過ごし、都会の渋谷へ通学する事になった。正門の右側に聖書、讃美歌、クロスやカードを売る店が数軒並び、門を入ると木々の緑の中に落ち着いた校舎があり、ミッションスクールの荘厳な佇まいがあった。母子家庭だったので、学費が幾分安くて良かった。学帽は小学校の時の帽子を直し、ジャバラを巻いて帽章を付け、靴を磨いたらテカテカになった。学生服は母の雨コートを生立て直した詰襟で、左側に緑色の盾に青山と入ったバッジを、右側に1Eと付けて、青学生が出来上がった(当時使用したバッジは資料センターに寄贈)。講義では基督教概論と経済政策が苦手だった。一年で単位を落した簿記は、二年の時近所のソロバン塾に通い四級で中退したが、答案は直ぐ出来た。毎年青色申告で複式簿記が役立っている。オーラルイングリッシュのオーストリッジ先生は、教壇に腰掛けて話すので髭毛が日に付いたし、二年の時は、夫が朝鮮戦争で出兵中と言った若い主婦だったと記憶している。入学時は教室に同じ声で、高く低く「ハイ」と代返があったが、出席票が配られるようになった。ゼミに入らず四単位多く取得して卒業した。

高三の時にボールで遊んだ程度で、バスケットボール部に入部した。体育館が無かったので練習は殆ど土の上、マネージャーの並木氏が尽力して、他校のコートを借用した。新宿三越近くの焼け跡に、小津組がマーケットを出し、そこでバッシュを買ったが、二日で底が割れてしまった。熊谷先輩から進軍の払い下げを譲り受けた。夏休に東横線の住宅街でアイスクリームを売るアルバイトを一日だけ体験。良く買ってくれたと思う。パイ



トの高収入は、朝鮮動乱での米兵の死体処理と聞いた。二年の夏でバスケは応援に廻り、中元と歳暮期間は伊勢丹でアルバイトをし、卒業後入社した。写真左から、神馬正紀、宮川道雄、新城直樹。

(2001.7、ゲームにて、商学科卒級友と)

「或るボランティア」

西尾隆司(1962.3 商学科卒 東京都在住)



1997~98年にかけて「言語・文化の相互交流」と言うちょっと大袈裟なスローガンですが、ボランティアでニュージーランドに滞在しました。定年退職後の私にとって、苦もありませんが、貴重な体験をさせてもらえました。この事がキッカケで、その後年に一回秋に来日するオーストラリアからの中高生を2日程東京案内するという、これもボランティアですがやっております。彼等の代表的なパターンは、始めの一週間程は首都圏のどこの家に分散してホームステイし、その後は全員が一週間程、代々木の「青少年総合センター」へ宿泊し(今年は60日程)、都内巡りや、日帰りで箱根や日光、時には京都遠足を延ばしたりします。今年は、シドニー近郊のMLC(Methodist Ladies College)と言う学校の先生・生徒でしたので、生徒は勿論女性、ニュージーランドでもそうでしたが、Collegeは日本の短大とは違って13~17歳の生徒を5年間一貫教育する学校です。今年、私が担当したのは10/6,7の両日都内巡り観光学徒11人に女の先生1人の計12人、ボランティアは、私を含め3人きりだったので楽でした(ある時は3人で30人程の男女の面倒を見た時もありました)。今年の女生徒は、何故か分かりませんが、原宿の竹下通りはママ分かるとしても上野のアメ横へ行き度いなどと言うのです。でも1人も付いたので安心でした。

話を聞くと、彼女達は現地ではいわゆる「良いとこのお嬢様」らしいのですが、日本の同年齢の方々と比べてもずっと地味で、純粋さと言う様なものを残している感じでした。今日、10/11彼女達は帰国します。飛べるボランティアではありますが、早くも来年のその時を楽しみにしているような私です。

話に聞くと、彼女達は現地ではいわゆる「良いとこのお嬢様」らしいのですが、日本の同年齢の方々と比べてもずっと地味で、純粋さと言う様なものを残している感じでした。今日、10/11彼女達は帰国します。飛べるボランティアではありますが、早くも来年のその時を楽しみにしているような私です。

「同窓会の活性化について」

森 啓(1958.3 経済学科卒 東京都在住)



経済学部昭和33年卒B組のクラスメイトが年に一度集まって、お互いの日常の暮らしぶりとか、健康、社会情勢等を話し、楽しいひと時を過ごしています。

当然、学生の頃の思い出、当時の先生のこと、青学の現状はどうなっているかも、関心事の一つです。決まって、学生時代を青学で過ごして良かったと言う会話も出ます。毎年は出なくても今年は来たとか、彼は入院中とか、時には訃報を聞き一同で黙祷をしたこともありました。

振り返ってみると、このクラス会は40数年続いていることになります。恐らく数名になっても続くでしょう。幹事役は非常に大変だと思いますが、自発的に数名の人でできています。

何故このようなクラス会が続くのか。楽しかった学生時代に巡り会った人達と当時にかえり、自由で何の遠慮もなく話しが出来るからでしょう。そしてお互いを確めあい、生活にゆとりと安心感、またプライドをももたらすからだと思います。

私は仕事の関係でニューヨーク、ボストンで勤務致しました。情報産業のシステム開発の為、ハーバード大学、MIT他ボストンの各大学を訪問することが出来ました。各大学を訪問する度にその都度、母校青山学院の校風がどこかで似ていることに、驚きと、懐かしさを感じました。

若い人達が自由で明るく、何の屈託も無く、自分達が進む方向を考えることの出来る1年間、卒業後も集って何でも話せる仲間。こういった校風こそ貴重な宝であり引き継がなければならないものと思います。

現在、校友会、学部同窓会、クラス会があります。地方によってはクラス会が校友会そのものになっているところもあると聞いています。まず、クラス会等がベースとなり学部同窓会、校友会が成り立って行くべきでないでしょうか。

同窓会の活性化の為に、校友会、学部同窓会、クラス会の一体化が必要だと思います。

第3回総会(第2年度年次総会)議事要旨

1. 榎本 弘会長挨拶

経済学部同窓会が設立され今年には3年目に入る。会員の勧誘、募集、会費の受入れ、帳簿整理、また幹事会、常任幹事会、役員会と組織作りも軌道に乗ってきた。講演会や会報の発行にも携わっているが、事務局も無くボランティアで活動しているので、皆様のご協力を賜りたい。

今後の問題の一つは、大学の同窓会の中での経済学部同窓会の位置付け。現在大学同窓会は3学部7学科であるが、今年の9/23に経営学部同窓会が発足し4学部となる。それぞれ必ずしも事情が一致していないので大学同窓会となるのは難しい。経済学部同窓会は後から出来たが模範となってリーダーシップを持つようになりたい。

もう一つは各同窓会を支援することを含め、学院と校友会共同で青学チャイムズを全卒業生に発送した。学院校友会と校友会事務局が一本化し校友センターが発足するので能率化が計られると思う。

同窓会活動に参画することによって良い活動が出来たと思えるようにしたい。

2. 来賓挨拶…経済学部長 美添泰人教授

相模原キャンパスほか、学校の現状などに触れ、経済学部が少子化にもかかわらず昨年並の受験生を確保したこと、さらに教授陣の充実を計り、益々、学部知名度を高める努力を続けているので、皆様の一層のご協力をお願いする。

3. 総会議事(第2年度会計報告)

平成12年度、事業報告、決算報告、監査報告、並びに平成13年度事業計画、収支予算案をそれぞれ審議、承認された。

平成13・14年役員改選:下記の方々を除き、役員、常任幹事、は全員留任とした。

会計委員は、今井義弘(経35)氏が退任し、後任に藤吉邦通(経34)氏が就任。常任幹事に次の各氏が新たに就任。森 啓(経33)氏、太田原 貞美(経63)氏、伊藤まゆみ(経H11)氏

■平成12年度収支決算報告

自平成12年4月1日 至平成13年3月31日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年繰越金	3,703,853	事業費	557,652
年会費収入	4,506,000	名簿管理費	6,405
総会会費収入	432,000	会報発行費	1,040,000
御祝儀	50,000	印刷費	961,473
預金利息	2,185	会議費	200,133
		通信費	863,548
		事務費	69,480
		寄付金	50,000
		雑費	66,982
		翌期繰越金	4,878,365
合計	8,694,038	合計	8,694,038

編集後記

- ▲第3回総会議事録は清水美子(経39)編集員が担当しました。
- ▲会員の皆様方のご投稿を“経済学部同窓会員は今……”として北から南から広くお便り頂きました。それぞれ今何をしているか、同窓会に対する意見、昔の懐かしいお話し、ありがとうございました。
- ▲AONサロンは本郷 茂(経47)編集員にお願いしました。(2)、(3)は次号に掲載の予定です。
- ▲第4号編集長、門川光雄(経35)。編集員、西尾隆司(商37)、清水美子(経39)、石井信之(経41)、相川和宏(商44)、松原優子(経46)、本郷茂(経47)、榎田澄子(経48)、磯部守孝(経53)、相原一浩(経58)、花岡雅夫(経H7)。

INFORMATION

- ◆2001.4.20 第5回常任幹事会 18名
- ◆2001.5.15 AOYAMA OIKOS NOMOS 第3号発行
- ◆2001.5.29 第6回常任幹事会 21名
- ◆2001.6.16 第3回総会(第2年度年次総会) 青山キャンパス 2:00pm~総会/講演会(大学920教室) 講師:山口廣太氏「マクドナルド「平日半額」戦略」 5:50pm~懇親会(青学会館) 総会75名、講演会95名、懇親会47名
- ◆2001.7.13 第1回常任幹事会 18名
- ◆2001.8.3 第1回拡大役員会 17名
- ◆2001.8.29 第2回常任幹事会 37名
- ◆2001.9.17 第2回拡大役員会 8名
- ◆2001.9.23 第8回大学同窓祭 メインイベント、フォーラム2001、入場券販売を担当。
- ◆2001.10.11 第3回常任幹事会 11名
- ◆2001.11.16 AOYAMA OIKOS NOMOS 第4号発行
- ◆2001.11.30 第4回常任幹事会
- ◆2001.12.5 平成13年度幹事会 6:00pm~幹事会 青学会館ミルトス 6:50pm~講演会 “ 講師:本間照光 経済学部教授 「生命・幸福追求と社会保障—経済活動がつくり出したもの・見失ったもの—」 7:40pm~懇親会 青学会館ナルド
- ◆2002.6.22 第4回総会(第3年度年次総会) 記念講演・懇親会

AONサロン ITの豆知識(1) 本郷 茂(経済学部教授)

最近、新聞・雑誌等でもITという文字を良く見掛ける。ITという用語は何時頃から使われる様になったか。1980年初め頃の「情報処理ハンドブック(1980年版)」、「現代用語の基礎知識(1984年版)」には「IT」とか「情報技術」に関する索引は無い。1990年頃の「情報処理ハンドブック(1989年版)」で、初めてタイトルに「情報技術」(information technology)と言う言葉を表している。ここでは、「通信とシステム間の情報交換」、「テキストとオフィスシステム」、「データ暗号技術」、「解放型システムにおける情報流通とその管理」、「データベース」、「グラフィックス」、「情報技術関連法規、安全性・信頼性対策(通産省、郵政省、労働省…)」、「システム監査」、「プログラム/データベースの保護」、「プライバシーの保護」などがあり、現在でも話題となる動向が挙げられている。「情報処理用語大辞典(1992年版)」に「情報技術」は「コンピュータを中心とする情報処理技術を情報技術ということがある。広くいえば情報という概念を用いるさまざまな技術をいう」とある。コンピュータによる技術全般に対してITという用語を広く使えそうである。最近の「現代用語の基礎知識」1999・2000年版では、CD-ROM検索でITに関し一つか二つ程だが、2001年版では、「IT革命」、「IT経済」などとIT関連の話題が数十項目にわたり検索出来る。正に21世紀になってから、このITの話題が広く使われ、私たちの生活の場まで浸透しています。

青山学院大学経済学部同窓会会報 第4号
2001年11月16日発行
発行者 榎本 弘
発行所 青山学院大学経済学部同窓会
(青山学院大学経済学部・石井信之研究室内)
〒150-8366東京都渋谷区渋谷4-4-25 Tel.03-3409-8111(内線12817)
皆様からの情報やご投稿は下記私書箱へ!
〒150-8691渋谷郵便局 私書箱145号